

## 02. » 吉田ビニール 株式会社

# 従来の製作環境にメスを入れる これからは従業員一人一人が意識する5S活動を

多くの要望に応える  
工場を目指す  
目の前の課題を解決し、



代表取締役 吉田 光

吉田ビニール 株式会社  
〒010-1633  
秋田市新屋鳥木町1番46号  
TEL:018-828-2811  
FAX:018-828-2817  
<http://yoshi-vi.com/>



HP



## 長年目を背けてきた工場内の整頓作業

半導体製造工場等に設置される塩化ビニール製の排気ダクト。全国有数の規模でその製造を行い、国内外から引き合いがあるのが秋田市新屋の西部工業団地にある吉田ビニール株式会社だ。

同社は1969年、先代の社長であり現会長である吉田征四郎氏によって設立された。現社長の吉田光氏は2015年に就任、2019年に創立50周年を迎えていた。

「業績は順調でしたが、課題がひとつ。長年倉庫を占領していた工具や材料、型枠といったモノたちです」。広い倉庫は普段使用するものと使用しないものの判別が難しいほど乱雑になっていた。製造品は大型のものが多く、保管場所にも限りがある。効率的な生産現場を目指すべく、2021年、吉田社長は活性化センターに相談。センターの助言により、まずはトップダウンで2S活動に取り組んだ。約1ヵ月かけて倉庫内の整頓作業を行い、個人に任せていた廃棄物の処理方法や備品の持ち出しルールも明確化した。「どこに何があるかを正確に把握することで作業だけでなく、経費の削減にも繋がりました」。

## 改善は継続してこそ。一人一人の意識改革を

倉庫の整理を終えた後、従業員全員の改善継続に向けた意識改革にも取り組んだ。センターから定期的にアドバイスを受けながら、社内で5S委員会を立ち上げ、従業員の主体的な改善活動を支援。委員会メンバーには、昨年9月にセンターが主催した「生産性見学研修in愛知」に参加してもらい、更なる自社の改善に繋げている。

「改善を続けながら、事業の拡大も行いたい」と吉田社長。現在は県外の営業所も含め65名の従業員がいるが、専門性の高い製造から、現場での取付工事、メンテナンスまでを担っているため、人手は決して十分とは言えない。近年は特に塩ビダクトを使用することが多い半導体生産工場の拠点が国内で増加傾向にあり、依頼が来ても手が回らず断ることもある。課題は、若手人材の確保を強化すること。吉田社長は、代表就任以来、毎年給与のベースアップを行う等、福利厚生にも力を入れている。

掲げる企業理念は「勇往邁進」。どんな困難にもひるまず、目的に向かって課題を一つ一つ解決し、前に進もうとする同社は、次の50年を見据えて邁進し続ける。



塩ビダクトは鉄板ダクトに比べ高価だが、酸に強く腐食しにくい特徴を持つ。製造には高い溶接技術が必要だ。



加工前の塩ビの素材は形や大きさが似たものが多い。  
ジャンル分けをし、棚へ収納することで作業の手間を省く。



センターからも紹介があり、秋田公立美術大学に廃材を提供。  
美大生ならではの発想からは、逆に学ぶこともあったという。